日野市立教育センター所報

教育センターだより

第５１号　令和４年７月８日発行

日野市立教育センター	わかば教室
〒191-0042　東京都日野市程久保 550 番地	〒191-0042　東京都日野市程久保 550 番地
電話　042-592-0505　　Fax　042-592-1148	電話　042-592－0863　　Fax　042-592-1148
午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分	午前 9 時から午後 4 時
休館日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始	休業日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始

教育センターだより第 51 号の発刊にあたって

日野市立教育センター所長　　正　留　久　巳

本年度は、第３次日野市学校教育基本構想の４年目です。子供たちが自分に合った多様な学びと学び方を身に付けることは未来に向けて必要な資質です。「一律一斉の指導から脱却し、一人一人をとらえたその子に合った指導をし、教材を工夫し、学習活動を通して子供たちが、学び方を身に付けられる授業をつくっていこう」ということです。

教育センターにおいても、「子供たちが主体性をもち学びを進める力を育むため、現場とつながり、授業力の向上を支える」「現場に役立つ教育センター」の目標に向けて、一歩でも前に進めるために、「できることをやる　柔軟に対応する」という視点をもって第３次学校教育基本構想の具現化のために、所員一同力を合わせて、事業を推進していきますので、よろしくお願いいたします。

◎調査研究事業は、理科教育と郷土教育がありますが、子供たちの疑問や驚きを引き出せる授業を創意工夫し、教材開発をし、その指導法を研究し、主体的な学びの育成を目指します。◎研修事業では、若手教員の指導力の基礎づくりとして、授業観察を通し、個々の課題に応じ、実態をとらえた指導、助言にあたります。「教育は人なり」の視点をもち、教員の持ち味を大切にし、きめ細かな指導、助言を行います。◎相談事業の「わかば教室」では長期の欠席に関することなどで悩み・課題を抱える子供たちの相談や支援を行います。また、主体的な学びを育むことを指導の基とし、個々の状況に配慮しながら、指導にあたります。

教育センターの事業内容については、Web サイトでの紹介に加え「教育センターだより」、「教育センター紀要」、「郷土日野」指導事例集などの刊行物も発行していますので、ご一読いただければ幸いです。

Ⅰ　研修部

１　若手教員育成研修　　教職員研修係

（１）１年次若手教員研修　（小学校２１名　中学校５名　　計２６名）

年３回、１年次の若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。指導の観点は、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたります。１年目の教員として身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導、助言を行っていきます。

「授業観察後の指導の様子」

（２）２年次若手教員研修　（小学校２１名　中学校１０名　　計３１名）

年１回、２年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。２年次教員に対して担当所員は、１年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業評価を通して、改善策等を具体的に指導していきます。教科指導における生活指導のあり方にも触れ、より実践的な指導力を付けるためのアドバイスもしていきます。

（３）３年次若手教員研修　（小学校２５名　中学校８名　　計３３名）

年１回、３年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。３年次教員に対して担当所員は、問題解決的、より実践的な授業を行うように、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力を付けていけるようアドバイスをしていきます。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導、助言にあたっていきます。

（４）夏季研修　（２年次及び３年次若手教員）

７月２８日、２年次及び３年次の若手教員育成研修が半日単位で開催されます。

２年次の研修では、特別支援教育や指導と評価の一体化について、３年次の研修では、保護者と協力しながら児童・生徒の指導にあたる適切な方策や、外部機関との連携について学びます。

２　教育委員会主催研修会への協力

教育委員会が主催する研修会で、主に教育センターで行われる研修会や夏季休業中に開催される教育課題研修会の受付、会場設営等の支援業務を行います。

Ⅱ　調査研究部

調査研究部では、「理科教育推進」及び「郷土教育推進」の研究を行っています。

１　理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）　教科等教育係

理科教育推進研究委員会では、日々の授業を「ひのっ子が主体となる理科授業」とするために、今年度も取り組んでいます。今年度は、小学校４年理科「星や月」、６年理科「月と太陽」の学習をより興味・関心をもって学習したり、より実感を伴った学習にしたりする授業支援の手立てとして、「天体観望会」の取組について研究を進めています。

また、小学校１、２年生活科や３年理科「動物のすみか」等で活用できるように、「秋の鳴く虫」の教材化についても研究を進めていきます。

学校への教材支援としては、３年理科「こん虫の育ち方」でのモンシロチョウの飼育・観察のために、日野市立教育センターで種から育てたキャベツの苗の配布、５年理科「生命のつながり［２］メダカのたんじょう」のために、メダカの卵の配布を行っています。また、４年、６年の天文学習に役立つように、昼間の月の観察の見頃な時期、時間帯、方角等を情報提供しています。

理数が好きな児童生徒を増やし、通常の授業では学べない知識や技術に触れることを目的にして企業等と連携した出前授業の調整を行っています。

教員の教材研究と授業力向上のために、日野市教育委員会の教員研修を支援しています。

（１）「天体観望会」の取組の研究の理由

通常、「星の観察」は、学校で夜間に開催するのではなく、各家庭で実施するようにされていると思います。また、美しい天体写真は教科書や図鑑、インターネット等で身近に見られるものの望遠鏡を通して実際に自分の目で天体を観察する体験が少なくなっています。

そのため、専門家と連携しながら、より知識・理解が深まる「星の観察」の機会を設定したり、子供たちが体験を通して、より宇宙や星空に興味・関心もって学習し、子供たちに科学的な見方・考え方を育成したりしていく体験活動の一つとして、「天体観望会」の取組を研究しています。

（２）「天体観望会」の開催と検証

天体観望会の取組に際しての課題として、①夜間の行事になり、勤務時間外になること。②参加人数に応じた望遠鏡の準備ができ、またその操作ができる人数を確保できること。③実際に、星空を観ながら解説できる人がいること。④開催を支援するボランティアの人達が必要なこと。⑤夜間の安全対策ができること。等が挙げられます。

これらの課題を一つ一つ解決していきながら、より望ましいあり方を研究しています。

実際に、今夏に日野市内の小学校で天体観望会を開催し、上述の課題を解決する方法を探り、検証していくことにしました。

課題①については、PTA 主催という開催方法にしました。課題②と③については、天体観望会開催の実績のある地域の天文同好会や天文教育の専門家にご協力いただけることになりました。課題④については、PTA を通して保護者ボランティアを募ることができました。課題⑤については、保護者同伴を原則とすること、また、ボランティアの人達の仕事として役割分担できたことで課題解決に向けて進んできています。実際の開催を通して、日野市内の学校での開催のあり方を検証していきます。

（３）「秋の鳴く虫」の教材化に向けて

特に、夏から秋にかけて、日野市内でもたくさんの鳴く虫の声が響き渡ります。しかし、虫が鳴いていても、虫の名前、どんな姿をしているのか等、分からないままになっているように感じています。夜空の星も、今見えている星や星座等のことが分かると、見える世界が豊かになっていきます。同様に、子供たちにとって鳴く虫の世界も豊かに感じられるような教材開発をしていくことにしています。

（４）学校の教材支援として

モンシロチョウが卵から成虫になるまでを飼育活動を通して観察したり、生命のつながりを「メダカの卵」を通して観察したりするために、キャベツの苗やメダカの卵の配布を行っています。

学校では配布したキャベツの苗に、モンシロチョウが卵を産み、蛹になり、蝶になって飛び立っています。このような教材支援を今後も続けていきます。

種から育てたキャベツの苗の配布

モンシロチョウの卵

モンシロチョウの幼虫

モンシロチョウの蛹

モンシロチョウの成虫

産み付けられたメダカの卵

成長したメダカの卵

卵から孵化したメダカの稚魚

※教育センターでは保有している教材･教具をお知らせし、希望校に貸し出しを行っています。

２　郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）　　ふるさと教育係

（１）郷土教育推進研究委員会

研究主題　「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとするひのっ子の育成」

①　研究主題に込めた願い

ふるさと日野で育まれ、様々な日野の良さと出会い、学び、日野地域や世界に活躍するひのっ子の育成を目指して、創意工夫して授業づくりに取り組みます。

◦疑問や驚きから生まれる問いを大切にして、自分たちなりの方法で、自分たちなりの答えにたどり着く過程を大切にします。
◦子供たちは、地域で自分を感じ、自分を育て、自分の生き方をつかみ取っていきます。
◦子供たちは、ふるさと**ひの**での活動を土台として、その先の世界へ飛び出していきます。
◦先生や大人は学びの促進者です。問いを深めてくれたり広げてくれたり、いろいろな考え方に出会わせてくれます。　（第3次日野市学校教育基本構想より）

②　ひのっ子へ目指す授業像

研究主題を共通理解するために、目指す授業像を明らかにしました。

	郷土への愛着を高める児童 ➡	地域と共に生きようとする児童
授業像	◦　郷土の人・こと・ものを知る授業 ◦　郷土を身近に感じる授業 ◦　郷土の良さや素晴らしさに感動する授業 ◦　郷土を誇りに思う授業 ◦　郷土の大切さ、かけがえのなさを感じる授業 ◦　郷土の人々とつながる授業 ◦　郷土に育まれ、郷土の一員である自分を自覚する授業 ※*「愛着」・・・心がひかれて、大切にしたいという思い*	◦　郷土を大切にする心や力が育つ授業 ◦　郷土の営みに協力する心や力が育つ授業 ◦　郷土に貢献する心や力が育つ授業 ◦　郷土を元気にする心や力が育つ授業 ◦　郷土を発展させようとする心や力が育つ授業 ◦　郷土に育まれ、生活している自他を大切にする心や力が育つ授業 ◦　自己の郷土への思いを発信し、郷土を愛する仲間を増やそうとする心や力が育つ授業 ◦　郷土で培われた個性を生かし、他地域や外国においても自己の務めを果たそうとする心や力が育つ授業
育みたい学習態度	**～主体的・対話的で深い学び～** ◦　自ら課題、自ら解決…探究的に学習する ◦　人と関わることによって、考えを深めたり、新たな情報を得たり、協力・分担して研究したりする　◦　ものごとを自分との関りでとらえる ◦　学んだことを通して自己の生き方を考える　◦　学んだことを発信する	

③　４グループでの研究

研究は４グループ編制で行い、２学期には研究授業を行います。Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄグループの現時点での研究テーマを紹介します。また郷土教育指導事例集の中から郷土教育教材を選んで各自が社会科だけでなく、国語、算数、道徳などの各教科、総合的な学習の時間での活用することに挑戦します。

Ａ・地域人材や関係機関との協力を活かした郷土を愛する児童の育成。
Ｂ・日野の魅力を知り、関りをもって発信するひのっ子を目指して。
Ｃ・日野のことをもっと知りたいと思える子どもを育てる。
Ｄ・第 1～16 集を活用しやすいようデータベース化する。年間指導計画例を作成。

④　夏季研修会

７月 27 日（水）に実施します。今年度は日野用水を取り上げて東光寺地区を巡ります。日野用水は日野の発展の礎であり、現在の日野の景観をもたらしたものです。用水を学び、水と人々の暮らしを考えます。東光寺小学校を出発して水車堀公園、谷地川水路橋、下堰、日野宮神社、よそう森公園を巡るフィールドワークを行います。

午後は、午前中のまとめと、地域資源の教材化に関する講義です。先生方のわくわくが、子供たちが瞳を輝かす授業の実現につながることと思います。

（２）ふるさと文化財課、図書館、中央公民館との連携

令和３年度に新たな組織として誕生した「ふるさと文化財課」、図書館、中央公民館と協力し合い郷土教育のさらなる充実を図っています。毎月の委員会には、ふるさと文化財課２名、図書館１名、中央公民館１名、合計４名の方が委員として参加しています。

（３）一緒に育てよう平山陸稲（ひらやまおかぼ）

平山陸稲は、1911 年（明治 44）に平山の篤農家林丈太郎が発見し各地に広まりました。その陸稲作りにわかば教室の子供たちと取り組み始めています。今年も種籾の選別、播種、苗作りの段階から参加しました。種籾の選別で沈んだ種と浮いた種の苗床を用意して種をまき、違いを比べました。6 月 16 日（木）に子供たちが田植えをしました。今年は水を張った箱と畑と二か所に植えました。成長の違いを見るのを楽しみにしています。8 月の出穂（しゅっすい）、10 月の稲刈りを楽しみに、子供たちと日々のお世話をしたいと思います。

水を張った箱に植えた苗

畑の土に植えた苗

Ⅲ　相談部　　わかば教室

相談部「わかば教室」では、長期欠席の児童・生徒が、安定した心理状態で過ごせる居場所として、さまざまな学びや体験の中から人との関りを通して、社会性や自立心の育成を目指しています。

（１）「わかば教室」での取り組み目標

①　児童・生徒一人一人のとまどいや個性にあわせて現状をありのまま受け止める。

②　さまざまな体験活動を通して、ゆるやかな人間関係を構築させていく。

③　各自のペースに合わせた通室時間・退室時間を認め、出席とする。

④　所属校との連携をとり情報共有を重ねることで保護者との信頼関係を築く。

（２）わかば通室について

小中学校で欠席が続いた場合、担任の先生は管理職の先生と相談し、わかば教室へご連絡ください。保護者と児童・生徒との面談の予定を進めていきます。詳細につきましては面談・見学の中で説明していきます。

（３）不登校児童・生徒にみられる一般的な事例

・集団・大人数・雑音・大きな音に弱く、予定変更に柔軟に対応できない。
・失敗を気にする傾向が強く、自己肯定感が低い。（できないことを知られたくない。）
・学校で多くのエネルギーを消費してしまい、回復する力がない。
・友達関係のトラブルや学業不振などにより、自信をもてなくなっていることから、このままではいけないと思っているがどうすればよいかわからない。

（４）「わかば教室」での一日の流れ

☆９：２０「朝の会」

☆９：３０～　午前中学習タイム・教科学習・わかばタイム・e ラーニング

【　わかばタイム　】

「ことば」書写・創作等、「音楽」合奏・創作、
「栽培」野菜の栽培、「スポーツ」縄跳び・バドミントン、
「図工・美術」工芸・焼き物等を曜日ごとに実施

栽培での苗植え

【　e ラーニング　】

一人一台のＰＣやタブレットを使い、ミライシード（国、数、英、社、理等）、タイピング、ペイント、プログラミング、Ｗｏｒｄ等いずれかを自分で選び、取り組んでいる。プログラミングを通して先を見通す力や、工夫して考える力がつき、その日の自分の状態や気持ちに合わせて活動内容を選ぶことが出来る。

☆１２：３０～１３：１５　昼休み　　（体育館でスポーツをする児童・生徒が多い）

☆１３：１５～１３：４５（小）　１４：２５（中）　わかデミー　SST

【　わかデミー(学習支援)　】　（自主性・主体性を育てる）

自分がやりたいことを自分で考えて決めて、それを実践することを目標とし、今ここでしかできない学びや探究を進める時間となっている。

☆考える→計画する→実行する→振り返る→表現する→やり方を工夫する→共有する

＜　今年度　児童・生徒のわかデミーの取り組み例　＞

染物　イラスト　野菜作り　動画撮影編集

焼き物　工芸　ダンボール工作　折り紙

【　ＳＳＴ(ソーシャル・スキル・トレーニング)　】

自己認知スキル、コミュニケーションスキル・社会的行動が身に付くためのトレーニングをしている。具体的にはゲームやエンカウンターワークシートを使って自分の考えや他の人の意見を聞き、自分自身を客観的に見つめる場を作っている。またコミュニケーションが苦手な児童・生徒のために、少人数でのグループトークも行っている。

☆１３：４５　小学生　帰りの会　　退室

☆１４：２５　中学生　帰りの会　　退室

春の遠足

（５）行事（本年度１学期に実施できた行事）

①　多摩動物公園遠足（４月）

動物解説員の説明を聞いて知識を深めた後、グループに分かれ興味関心のある動物、生き物を熱心に観察学習ができた。また、集団行動を通してゆるやかに児童・生徒間の交流を深めることができ、交通ルール等も学ぶことができた。

②　スポーツ大会（５月）

バスケットボールやバドミントン、卓球などの種目でチームごとに協力して試合に臨み、競い合う姿が見られ、スポーツへの興味と関心を深めることができた。

③　高幡図書館訪問（６月）

図書館員の説明・案内を受けた後、実際に本を借りて図書館活用の学習をした。テーマ別にコーナーが分かれていることを知り、興味ある本を探すことができ、学習の場が広がった。さまざまな本との出会いと、他の人と自然な関りができ、ゆるやかに相互理解が図れていた。

（６）カウンセラーによる相談

カウンセラーが常駐し、児童・生徒一人一人の状況に応じて丁寧に寄りそっていくことを目的としています。また保護者の方の不安や悩みを少しでも和らげることができるように随時相談も受け付けています。

（７）学校におけるインクルージョンに関する実践的研究事業について

・あいさつ運動　（小中学校三校と連携して、職員が朝にリモートで挨拶をかわしている。）

・紹介ビデオ作成

・多摩モノレール程久保駅構内展示へ向けて作品を作成中